

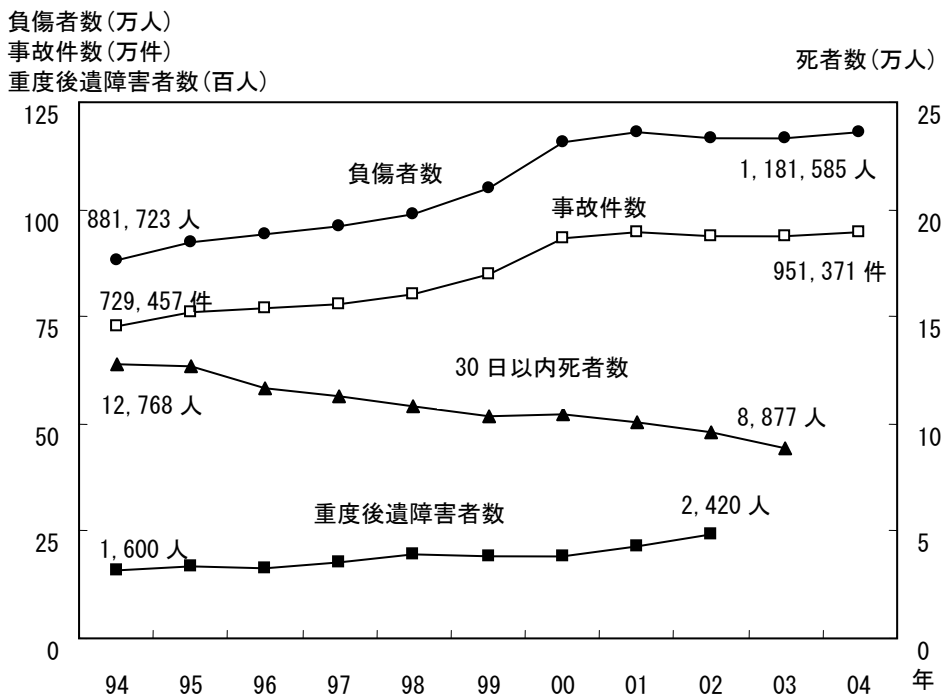
# 自動車の交通事故の状況

## 1 交通事故による死者数、重傷者数、重度後遺傷害者数等の推移

第4回検討会資料と同じ

○交通事故件数は、増加傾向にあったが、最近2、3年は横ばい状況である。  
○交通事故による死者数は減少傾向にあるが、一方、重度後遺障害者数は増加傾向にあり、依然として厳しい状況である。

図表 1 交通事故による死者、死傷者数等の推移



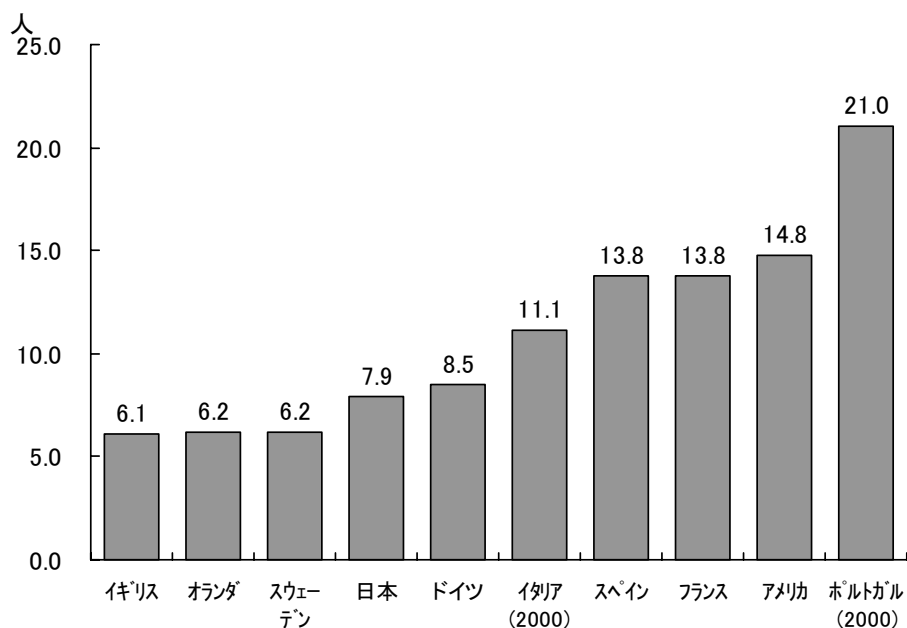
資料: 交通事故総合分析センター

国土交通省

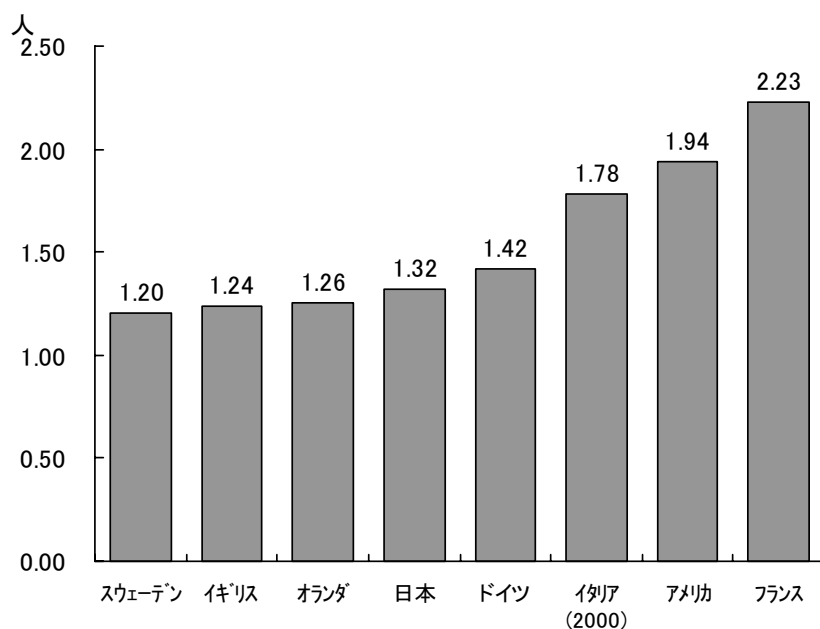
注: 2004年は概数。

## 2 諸外国の交通事故発生状況

図表 2 各国の人口 10 万人当たり死者数の比較(2001)



図表 3 各国の自動車 1 万台当たり死者数の比較(2001)



注1: 死者数(30日以内死者)、人口、自動車台数(原付二種以上)は、国際道路交通事故データベース(IRTA D)による。

2: 下記の国の死者数は、( )内の係数を乗じ、30日以内の死者数に換算した値である。

フランス: 事故発生後 6 日以内の死者 (1.057)、(1992 年以前: 1.09)

イタリア: 事故発生後 7 日以内の死者 (1.08)

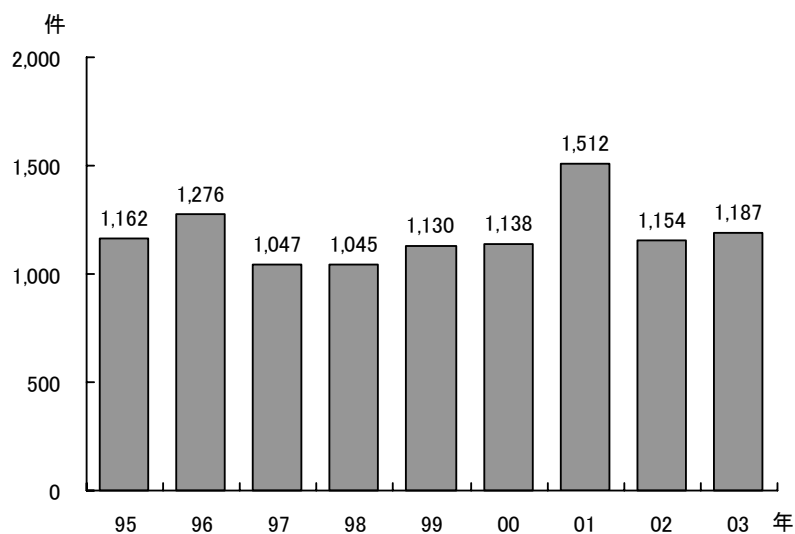
資料: 平成15年度交通安全白書

### 3 車両要因を伴う交通事故の発生状況

第4回検討会資料と同じ

- 車両要因を伴う交通事故は、概ね横ばいである。
- 交通事故総合総合分析センターの整備不良による交通事故事例(マイクロ調査)によれば、整備不良が交通事故の要因として関与したと推測された事故件数は、全体の1.1%である。

図表 4 車両要因を伴う交通事故件数の推移(マクロ統計)



資料: 交通事故総合分析センター

図表 5 整備不良による交通事故事例(マイクロ調査)

	93	94	95	96	97	98	99	00	01	02	累計
調査台数 (a)	106	398	424	430	434	434	419	453	463	478	4,039
整備不良が確認された台数(b)	6	15	28	29	11	9	6	8	19	23	154
同構成比 (b)/(a)×100 %	5.6	3.7	6.6	6.7	2.5	2.0	1.4	1.8	4.1	4.8	3.8
整備不良が交通事故の要因として関与したと推測された台数 (c)	—	6	7	7	4	3	4	4	5	3	43
同構成比 (c)/(a)×100 %	—	1.5	1.7	1.6	0.9	0.7	1.0	0.9	1.1	0.6	1.1

資料: 交通事故総合分析センター (平成5~14年累計)

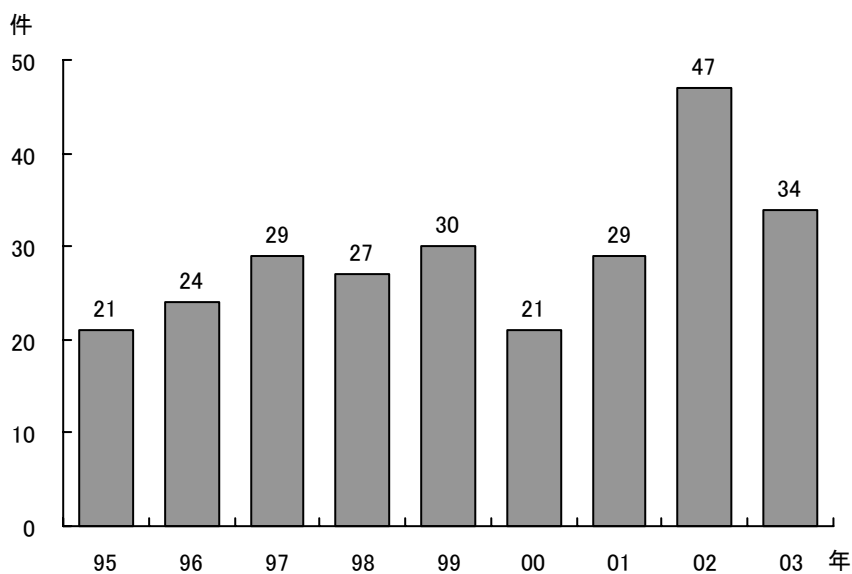
#### 4 大型車の車輪脱輪事故

第4回検討会資料と同じ

大型トラック・バスにおいて、ホイール・ボルトの折損により車輪が脱落する事故が目立って発生している。また、大型トラック・バスのハブが破断することにより、車輪が脱輪する事故も生じている。これらの中には、脱落した車輪により人身事故に至ったものもある。

警察庁データに基づく車輪不良による死傷事故件数をみると、年間30件程度発生している。また、平成16年度、国土交通省で行われていた「大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故に係る調査」によると、大型車の車輪脱落事故のうちホイール・ボルト折損によるものは、平成16年に63件発生している。これらの事故の中には、点検整備が適切に行われていれば防止できたものも多数あった。

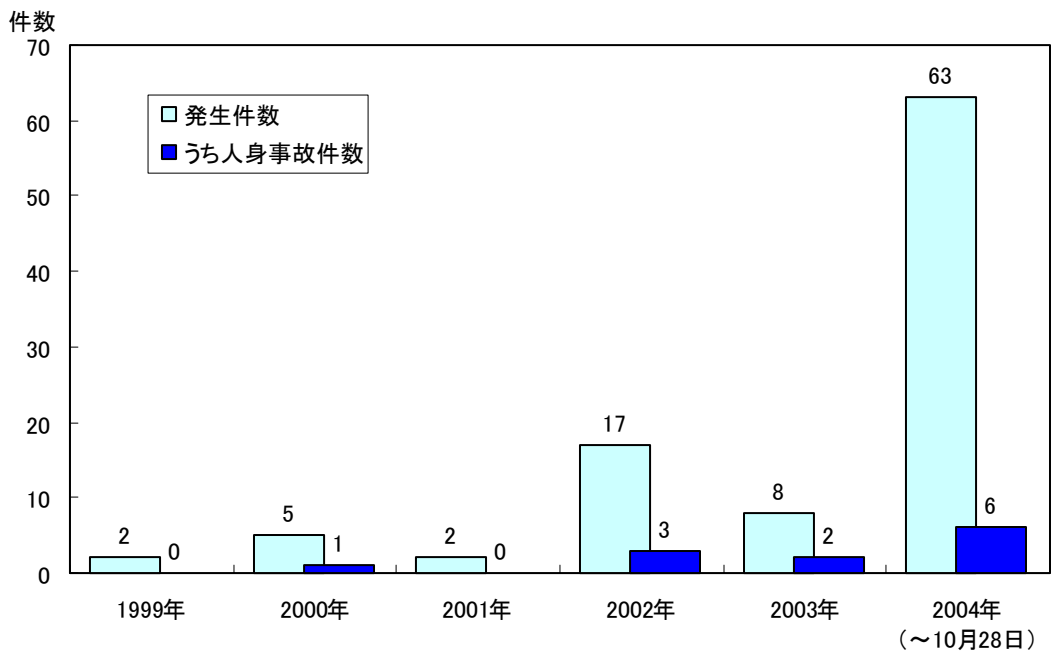
図表 6 車輪不良(脱輪、締め付け不良)による交通事故件数の推移



資料: 交通事故総合分析センター

図表 7 大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の発生件数

(1999～2004.10.28 合計 97 件)



資料:「大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故に係る調査検討会」(国土交通省)

図表 8 ホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の事例



図表 9 ホイール・ボルトが全て折損したハブ



## 5 車両故障を伴う車両火災事故

### 第4回検討会資料と同じ

本年7月に東海北陸自動車道で、大型トラックと乗用車が衝突し、車両火災になり計7人が死亡した事故をはじめ、最近、交通事故や車両故障による車両火災が頻繁に発生している。

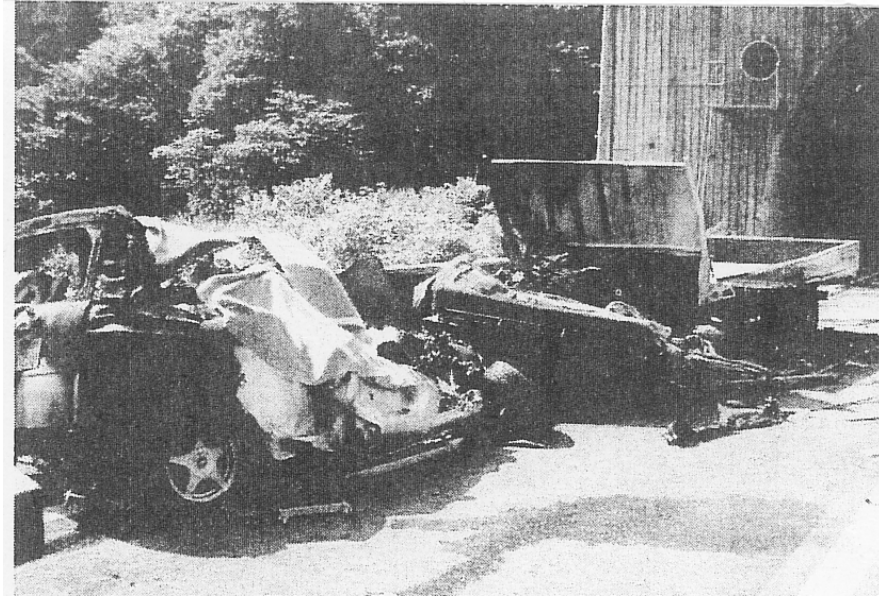
消防庁データによると、原因として車両故障の可能性がある車両火災は、年間2200件程度発生している。また、警察庁データによると、死傷者を伴う車両火災事故は、年間130件程度発生している。

図表 10 2004年度の車両故障などによる車両火災事故事例

No.	日付	事故の概要	死傷者数
1	2004/07/27	岐阜県郡上市大和町の東海北陸自動車道の平山トンネル(1413メートル)の北側出入口付近で、対面通行区間の下り車線を走行していた普通トラックが対向車線に飛び出し、上り車線の乗用車とトンネルの北側出口から約10メートルの地点で正面衝突。そのまま後方へ約30メートル押し戻され、直後に炎上した。乗用車に乗っていた一家5人とトラックの男性2人の計7人が死亡。 トラックの右前輪がパンクし、真横に裂けた状態であった。	7(死亡)
2	2004/07/29	山陽自動車道下り線の書写山第2トンネル内で、大型トラックの右前輪がパンクし、急停止した。運転手がトンネル内の非常電話で連絡中、トラックの車体前部から出火し、全焼。 運転手が煙を吸って病院に運ばれた。後続のトラックや乗用車など計約30台がトンネル内に残され、運転手ら約40人が車を降りて煙の充満するトンネル内を約800メートル歩いて避難した。	0
3	2004/07/30	山陽自動車道上り線で、タンクローリーがトンネル内を走行中に右前輪がパンクし、右側壁に衝突して炎上した。火は側壁にも燃え移って数十メートルが焼け落ち、さらに、高架下に燃え広がり、立ち木などが焼けた。また、火災の影響で現場の送電線に異常が起き、兵庫県夢前町内の約二千二百世帯が約一分間停電した。	0
4	2004/08/07	山陽道高山トンネル東側出口から250メートルの地点で乗用車がパンクし、同行の2台とともに3台で停車し、パンク修理を行っていたところトラックが衝突し多重衝突を起こした。トラック1台と乗用車2台が炎上。追突された乗用車3台に乗っていた幼児3人を含む5人が死亡。さらに煙を吸うなどして22人が負傷した。また、トンネル内に煙が充満して、多数の車が立ち往生。	5(死亡) 22(負傷)

No.	日付	事故の概要	死傷者数
5	2004/08/12	エンジンの付属部品の故障の修理を終え、営業所に届けられる途中の路線用マイクロバスが、長野県浅科村蓬田の県道で出火。運転していた自動車修理会社の社員が出火に気づき、消火した。	0
6	2004/09/10	岐阜県各務原市那加扇平の東海北陸自動車道下り線権現山トンネル内で、ブレーキの調子が悪くなってトンネル内で停止したトラックが右後輪付近から出火し、全焼。下り線の岐阜各務原インター～関インター間が一時通行止め。	0
7	2004/09/11	松井田町北野牧の上信越道下り線松井田妙義IC—碓氷軽井沢IC間で、大型トラックがエンジン部近くから異常音を発し、運転手が登坂車線に車を止めて降りたところ、車両から出火し全焼。同下り線は、松井田妙義IC—碓氷軽井沢IC間が約1時間30分にわたり通行止め。	0

図表 11 車両火災事故事例



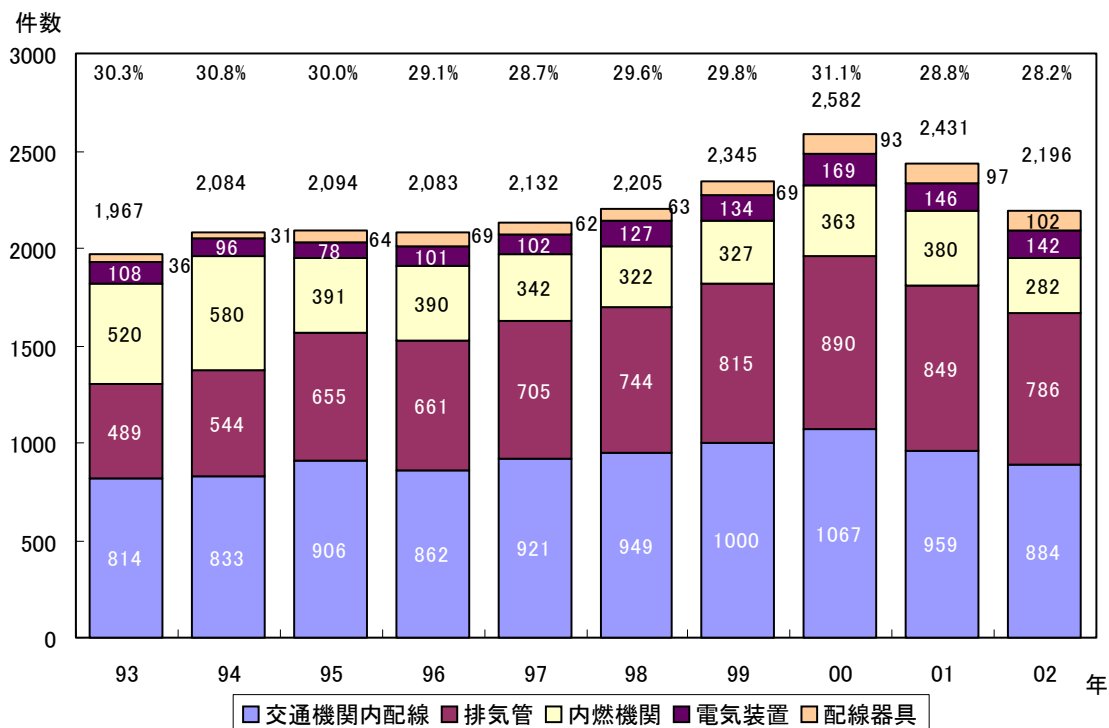
車両火災事故事例 NO. 1 (日本経済新聞 2004.7.27 夕刊)



車両火災事故事例 NO.4 (産経新聞 2004.8.8)

図表 12 消防庁データによる車両火災の推移

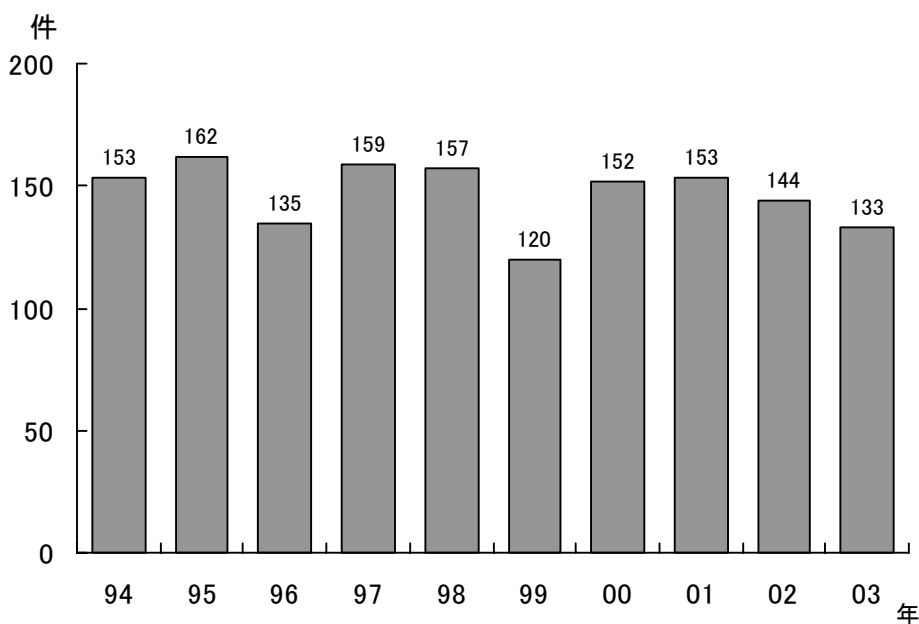
(車両火災のうち車両故障と考えられる出火原因件数)



注: グラフの上にある割合 (%) は、車両火災の総件数に対する車両故障が出火原因と考えられる車両火災件数の割合

資料: 消防庁

図表 13 交通事故による車両火災事故件数の推移



資料: 交通事故総合分析センター

## 6 車両故障により停車していた車両への衝突事故

### 第4回検討会資料と同じ

高速道路などにおいて、車両故障により修理等で停車中に後続車に追突されるなどの交通事故も最近頻繁に生じている。

図表 14 2004 年度の車両故障により停車していた車両への衝突事故事例

No.	日付	事故の概要	死傷者数
1	2004/04/07	中央道で、路肩で点検中の大型トラックに別の大型トラックが追突。前方左側のタイヤ付近の下に潜り込み、点検していた運転手が、タイヤの下敷きになり死亡。5 時間の通行止め。	1(死亡)
2	2004/06/10	名神高速道竜王インター付近の下り線で、故障のため路肩に停車していた大型トラックに別の大型トラックが追突。大型トラックは、はずみでガードレールを破壊。7 時間の車線規制と 9km の渋滞。	0
3	2004/07/22	山陽道で、ギアの故障のため登板車線に停車していた大型トラックに別の大型トラックが追突。 約 4 時間通行止め。	1(死亡) 1(負傷)
4	2004/08/01	阪神高速大阪松原で、故障のため走行車線に停車していたワゴン車に後続の大型トラックが追突。車外に出ていたワゴン車の 4 人が追突の衝撃で動いたワゴン車にはねられた。	2(死亡) 2(負傷)
5	2004/08/07	山陽道高山トンネル東側出口から250メートルの地点で乗用車がパンクし、同行の2台とともに3台で停車し、パンク修理を行っていたところトラックが衝突し多重衝突を起こした。トラック1台と乗用車2台が炎上。追突された乗用車 3 台に乗っていた幼児 3 人を含む 5 人が死亡。さらに煙を吸うなどして22人が負傷した。また、トンネル内に煙が充満して、多数の車が立ち往生。	5(死亡) 22(負傷)
6	2004/08/10	中国自動車道上り線で、路側帯にタクシーを止めてタイヤのパンクを修理していたタクシー運転手が大型トラックにはねられた。タクシー運転手は走行車線に出てパンクした右後輪の修理をしており、ハザードランプを点灯し、後方約10メートルの走行車線上に停止表示板を置いていたという。	1(死亡)
7	2004/08/27	名神高速上り線天王山トンネル左ルートで、渋滞していた車の最後尾に大型トラックが突っ込み、乗用車など計7台が玉突き衝突した。事故の直前、コンクリート廃材を積んだトラックの両方の後輪がパンクし、追い越し車線に停車したため、後続の車6台が止まって渋滞していたところに、大型トラックが突っ込んだ。約五時間通行止めとなり、最大約二十キロ渋滞した。	9(負傷)
8	2004/09/01	東名高速道で、パンクのため路肩に停車していたトラックに大型トラックが追突。トラック運転手は車外に投げ出された。また、追突されたトラックはさらに前方に停車していた車に玉突き衝突。 最長で 6km の渋滞が発生。	2(負傷)

